

“めざせ！「救命の絆」世界一のまち” 要約版

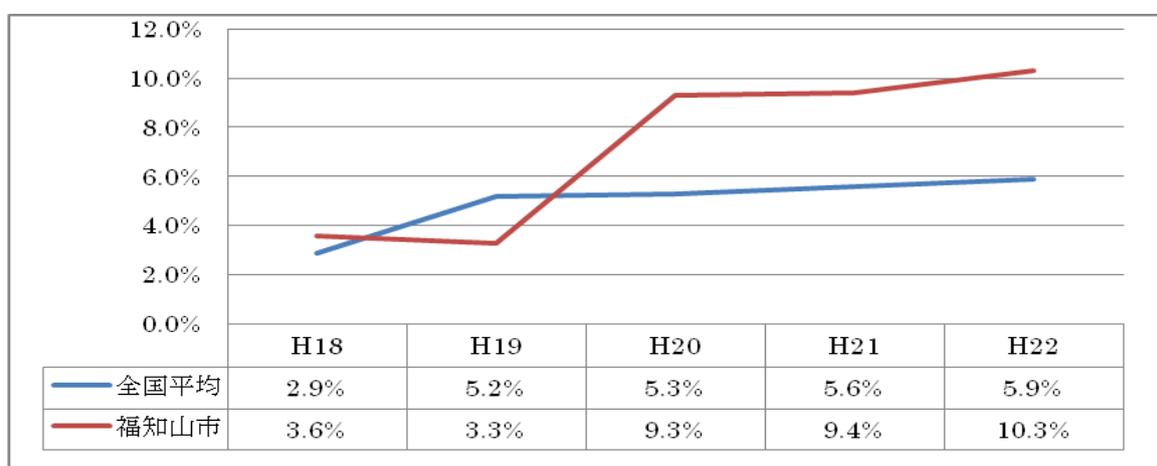
はじめに

ふるさと福知山を「幸せの舞台」にするべく、市民の誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりを“めざせ！「救命の絆」世界一のまち”事業をとおして実現します。

1 事業について

(1) 福知山市の救命率と社会復帰率

本市において、心停止で救急搬送された人の救命率（1ヶ月生存率）は、全国平均にくらべて2倍近い水準で推移しています。しかし、救命の最大目標は社会復帰をさせることにあります。



(2) 応急手当の必要性

心停止となった人に対して、本市ではより多くの人員で処置を行う「PA連携」（消防隊と救急隊の連携）を行っています。しかし、救命率および社会復帰率を上昇させるためには、バイスタンダーとなりうる人を増やすことが最重要課題といえます。

(3) より多くのひとに応急手当を

1世帯に1人以上の市民救命士をめざします。この目標を達成するため、専門的知識を持った指導員（応急手当普及員）を市民の中から認定し、応急手当の普及促進を図ります。

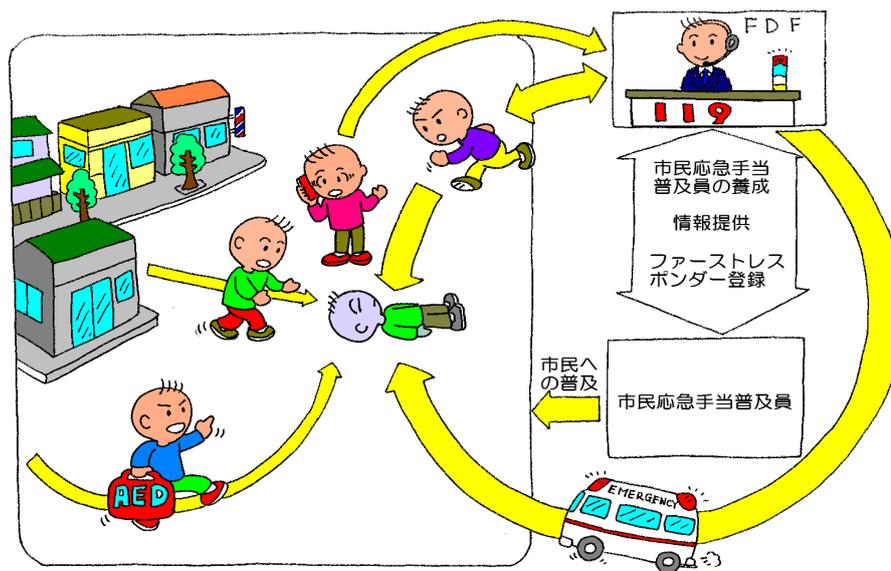
2 期待される効果

救急隊が現場到着する前に救急現場に居合わせた人（バイスタンダー）が迅速、適切な心肺蘇生等の応急手当を行うことにより、大きな救命効果が期待できます。また、増加が懸念されている救急需要（資料参照）に対しての適正利用による抑制効果も期待できます。

市民の自主救護能力の向上や、人を助けるという意識の醸成により、防災意識の高揚、地域ぐるみの防災体制の確立などが期待でき、災害に強いまちづくりの推進につながります。

3 目指す将来像

行政と市民が一体となり、地域コミュニティを活かした救急体制を構築し、ひとりひとりが命をつなぎ助け合う、より安心・安全なまちづくりを目指します。



地域コミュニティを活かした救急体制

(1) 救急まちかど安心ステーションの開設

市内の事業所等を「救急まちかど安心ステーション」として認定し、AED設置場所の公開、ステッカーや案内表示板の設置を行います。

(2) 一般市民によるファーストレスポンドーの養成

ファーストレスポンドーとは傷病者のもとにいち早く向かい手当を始める人のことをいい、周辺地域等のバイスタンダーとなりうる人が少ない地域では特に威力を発揮します。

おわりに

生涯学習として救命講習を受講して行くことで、命の大切さを知り、人を思いやる気持ちを育みます。この気持ちが広がり、地域の繋がりや世代間の交流が進むことで地域の活性化を図ります。

“めざせ！「救命の絆」世界一のまち”とは、人と人との絆を深めていくことで、安心・安全な住みよいまちづくりを目指す事業です。